



東洋英和女学院

史料室だより No.103



2024.11.13 発行
東洋英和女学院
史料室委員会



◆ 学院資料展示コーナーでの周年行事展示

本部・大学院棟1階の学院資料展示コーナーでは「東洋英和の周年記念—創立25周年から現在まで—」と題して企画展を行っています（会期：2024年12月21日まで）。カナダからの婦人宣教師が創設した学校である東洋英和の校章は、カナダの国樹である楓をかたどってデザインされています。周年行事やその他の記念行事のたびに数々の「楓グッズ」が作成されてきました。本年の学院創立140周年においても、学院各地でたくさんの「楓グッズ」が誕生していることでしょう。

◆ 目次

特集 東洋英和の周年行事

—創立25周年から140周年の現在まで— 2

『東洋英和女学院140年史』『東洋英和のれきし』刊行のお知らせ／

刊行記念講演会のご案内 10・11

報告〈桜プロジェクト〉植樹10周年カナダツアー 山本 香織 12

史料室から、ごきげんよう 迷子の記念品たち 14

利用統計／史料室の活動より（2024年4月～2024年9月） 15



— 創立25周年から140周年の現在まで —



今年2024年に東洋英和女学院は創立140周年を迎えました。それぞれの時代の課題を乗り越えながら、東洋英和では節目ごとに50周年、80周年、100周年など周年行事・周年事業を行ってきました。今回の「史料室だより」では周年行事の歴史をたどり、改めてその意義を考えていきます。

ミス・ブラックモアのアイデア

周年行事は「生きた宣伝」

東洋英和が周年のお祝いをするようになったのはいつからでしょうか？史料によると、それは1909（明治42）年の創立25周年に始まり、当時校長だったミス・ブラックモアの発案によるものでした。「敬和会」第53号（1990年8月、敬和会発行）には、ブラックモアが本国カナダの婦人ミッションへ送った報告の翻訳が掲載されています。そこには創立記念日が11月6日に定められた経緯とともに、学校が周年行事を行うことの意義が明確に示されています。すなわち、周年行事を機に在校生・教職員・保護者・同窓生が集い、共に祝い、交流し、記念運動会などの行事を通じて生徒の活動を知り、学校の歴史を振り返ることによって、学校関係者が「格式ばった関係よりももっと真の友情を、お互いの間に感じ」ることをブラックモアは重視しました。さらにブラックモアは「これ〔周年行事〕は私たちが世

に訴える唯一の宣伝—生きた宣伝—で、それは非常に効果的です」と語り、周年行事を行うことが、東洋英和での基督教に基づいた女子教育が成果を上げ発展していることを、世に知らしめる重要なチャンスであるとも認識していました。

ブラックモアの意図する「生きた宣伝」に合致するように、メソジスト三派の協同機関誌である「護教」第956号には東洋英和の25周年行事の詳細が掲載され、学外にも広く報じられました。一方で、前述の「敬和会」の記事に見られるように、ブラックモアは本国カナダの婦人ミッションやその会員たちに向けても周年行事の報告をし、東洋英和での教育による伝道活動が着実に実を結んでいることを示し、さらなる援助を得られるよう努めています。

そうした貴重な機会である周年行事を、5年の節目ごとに設定したのもブラックモアでした。

ミス・ハミルトンによる

「英和らしさ」の確立とビジョンの提示

歴代の周年事業の中で、一際目を引くのは創立50周年です。ミス・ハミルトンが校長になってか



創立記念日を守る意義について書かれた「敬和会」第53号（1990年8月、敬和会発行）



東洋英和において、5年ごとに周年行事を行うことを定めたブラックモア校長。当日の記念式を報じる「護教」第956号（1909年11月20日）（右）。周年行事が学校を広報する貴重な機会であることをブラックモアは認識していた。

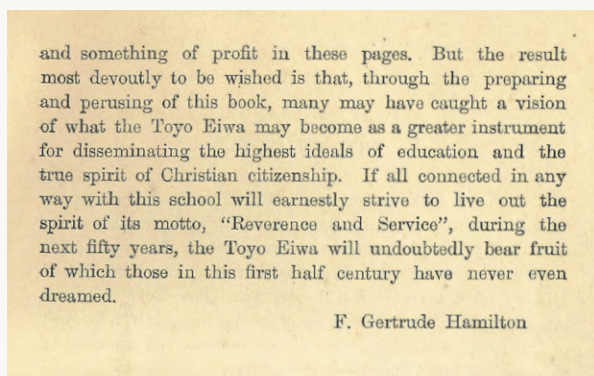


ら50周年までの間に、東洋英和では校章・制服・校旗・学校標語「敬神奉仕」・校色・校歌が制定され、ヴォーリス設計による新校舎群も完成し、現在の私たちにも通じる「英和らしさ」が確立していきました。ハミルトンが行ったのは今で言うところの英和の「ブランディング」だったのでしょう。

さらに周年事業として、学校の経営基盤を堅固にするための東洋英和女学校の財団法人化も、ハミルトンの指揮のもとに進められました。ハミルトンは『東洋英和女学校五十年史』において、東洋英和が「高い教育の理想」と「キリスト教の世界市民としての真の精神」を広めていく学校になるというビジョンを掲げ、50周年ののちの次の半世紀へ向けて東洋英和が進むべき道を示しました。



創立50周年（1934年）に照準を当て、数々の記念事業を敢行したハミルトン校長。50周年前後に楓の校章・制服・校旗・学校標語「敬神奉仕」・校色・北原白秋作詞／山田耕筰作曲による校歌が制定され、ヴォーリス設計による新校舎群も建設された。



『東洋英和女学校五十年史』（1934年）のハミルトン校長による序文（部分）。東洋英和が目指すところの「ビジョン」が語られている。

長野彌院長による

東洋英和の自立を祝った80周年

戦後、長野彌先生が初代院長となり、学校の復興と発展に寄与していったことは「史料室だより」で何度もお伝えしている通りです（「史料室だより」No.94特集「1964年 東京オリンピックの時代と東洋英和女学院」、



No.100特集「長野彌先生—東洋英和の自立と婦人ミッションへの感謝—」参照）。東洋英和が一連の校地拡張・校舎建築を完了させ、ミッションからの援助なしに自立できる目途が立った時期である1964年の80周年は、大きな節目の周年として盛大に祝われました。

光明照子院長による

大学開学への道を拓いた100周年

そして、光明照子院長のもと、いよいよ東洋英和が創立100周年となる時期には、学院は横浜校地を獲得し、4年制大学開学へと進んで行く大きな転機を迎えました。その後東洋英和は、東洋英和幼稚園、小学部、中



学部・高等部、大学、大学院、大学付属かえで幼稚園を擁する総合学園へと発展していきました。



大きな岐路を見据えての140周年

140周年を迎える現在、学院も参画している六本木五丁目西地区市街地再開発計画が進行し、東洋英和幼稚園と小学部の仮園舎・仮校舎への移転が予定されています。また、社会の変化に伴い、学校教育の在り方も大きな転換を迫られています。

今回の創立140周年は、次の大きな節目となる150周年を視野に入れながら、東洋英和の建学の精神である「敬神奉仕」の現代における具現化を模索し、学院関係者一同が東洋英和の進むべき道を祈りつつ熟考する時となっています。

東洋英和の周年行事 年表

周年	西 暦	和 暦	日	周年行事	概 要
25周年	1909	明42	11/6	創立25年祝賀会／文学会 ※「文学会」(または文芸会)は、現在の学芸会のようなもの。ピアノ独奏・英語暗誦・対話・体操などを行った。	◆ブラックモア校長の発案により周年行事が始まる。この年より11月6日を創立記念日とし、5年ごとに創立記念式典を開催するようになる。 ◆翌年には創立25周年記念として雨天体操場落成(同窓会、故ミス・F. パーマー〔カナダの寄付者〕、王女会、山尾・渡邊家の寄付による)／故ミス・F. パーマーの寄付金により図書室拡張充実
30周年	1914	大3	11/6	創立30周年記念祝賀会	◆東洋英和幼稚園開園式を兼ねて、創立30周年の祝賀会が行われる。  「創立三十年記念絵葉書」より
35周年	1919	大8	11/5	創立35周年記念体操競技会 ※幼稚園児から保母養成所在校生まで参加 父兄招待会	◆同年9月には長野県にあった上田保母伝習所を東洋英和女学校内に移転設置し、 私立東洋英和女学校附属保母養成所 を開設 ◆この時期より、 永年勤続者の表彰 が始まった様子。勤続25年以上の教員である今諏訪せい子、小林富子、加茂令子3氏の功労を表彰
			11/6	創立35周年記念式典／記念祝賀会	
			11/7	祝賀大文学会	
40周年	1924	大13	11/5	創立40周年記念体操競技会／父兄招待会	◆ 関東大震災の翌年 にあたる。東洋英和女学校の校舎は震災にも耐えたため、無事に周年行事を行っている。 ◆この翌年の1925年には ミス・ブラックモア が引退し、カナダに帰国。 ミス・ハミルトン が校長に就任し、新たな時代が始まる。
			11/6	同窓会／共餐会／創立40周年記念式／記念祝賀会 ※ブラックモア校長 同窓会会長 大江スミ 校主 平岩愼保 安井てつ女史の演説あり	
			11/7	創立40周年記念祝賀文学会 ※在校生の演説、作文朗読、英詩暗唱、歌唱、ピアノ演奏などが披露される。	
[45周年]	1929	昭4	11/8	大文芸会(校舎建築資金募集のため) ※校友会文芸部主催。E.G.サティール指導英語童話劇「バンドラ」、教員で文芸部部長の今村寿々代作・演出の聖劇「殉教者ステパノ」などを上演(於：青山会館)	◆創立45周年には特別な周年行事が行われなかった様子だが、 東鳥居坂町二番地の土地購入費 を補完するため「 後援会 」が臨時に組織され、東鳥居坂町八番地の 校舎改築、財団法人設立 に向けての準備が進められるなど、来たる「50周年」に向けて着々と諸事業が展開される。 ◆創立記念日の近くで開催された「 大文芸会 」も 校舎改築の資金集めのために行われた 。入場料から得た純益1561円49銭は、学校に寄付された。 ◆1927年11月に同窓会も「 校舎改築基金募集運動 」を開始。1928年・1929年・1930年のいずれも11月にバザーを行うなどして資金を集めた。1931年11月には同窓会募集の改築基金が5万3千円に達し、学校へ寄付された。
{プレ 50周年}	1933	昭8	11/6	校舎新築落成式・カナダ合同教会婦人ミッション宣教50年記念式 ※この年に新築のマーガレット・クレイグ記念講堂で開催	◆前年の1932年には、東鳥居坂町二番地に ウィリアム・メルル・ヴォーリス 設計による 幼稚園/伝道館・西洋教師住宅、寄宿舎(青楓寮) が落成

周年	西 暦	和 暦	日	周年行事	概 要
〔 プレ 50周年 〕	1933	昭8	11/7	新校舎落成祝賀大文芸会	◆1933年には、東鳥居坂町八番地に同じくヴォーリズ設計による新校舎が落成する。この時期、次々と東洋英和の校舎は新しくなっていた。 ◆校舎落成とともに、学校創立者のミス・カートメルにはじまる婦人ミッション（WMS）による日本宣教50周年の記念式も盛大に祝われる。
			11/8	同窓会／ 新校舎落成祝賀大文芸会	
			11/9	カナダ合同教会婦人ミッション宣教50周年記念婦人大会 ※母の会会員、各教会婦人、有志婦人が参加	
			11/10	改築落成祝賀運動会	
50周年	1934	昭9	11/5	創立50周年記念内祝 ※生徒が対象。校歌を発表祝賀文芸会 ※ミス・カートメルにはじまる東洋英和の創立からの歴史をたどるページェント「想ひ出」等が披露される。	◆1934年5月に、東洋英和は財団法人東洋英和女学校となる。 ◆50周年までに楓の校章・制服・校旗・学校標語「敬神奉仕」・校色「ガーネット&ゴールド」を制定。50周年式典では北原白秋作詞・山田耕筰作曲による校歌がお披露目となった。
			11/5-9	創立50周年記念行事週間 展覧会 ※Unit of Workの発表	
			11/6	創立50周年記念式 ※司会：理事長 赤澤元造 祝辞：前首相 齋藤實子爵 カナダ公使マーラー（通訳は村岡花子） WMS主事 S.R. コーテス 同窓会会長 大江スミ 祝賀文芸会（第2回）	
			11/7	同窓会／ 祝賀文芸会（第3回） ※同窓生の東伏見宮妃殿下臨席	
			11/9	創立50周年祝賀運動会	
			 <p>創立50周年記念式</p>  <p>創立50周年祝賀文芸会 ページェント「想ひ出」第2場 波止場（手前中央 カートメル先生役）</p>		
55周年	1939	昭14	11/6	創立55周年式典 ※小野直一校長の感話あり。ただし、高等女学科5年生は、代々木練兵場の明治神宮奉拝式に参加	◆1937年には日中戦争も始まり、周年行事にも戦時体制の影響が及んでくる。 ◆時局を鑑み、前年の1938年に校長職はカナダ人のミス・ハミルトンから日本人の小野直一に引き継がれていた。 ◆英和生の大好きな周年恒例行事である文芸会も開催されなかった。
			11/9	創立55周年記念祝賀小運動会（於：花小金井 旧高等拓殖大学校庭）	
60周年	1944	昭19	11/6	創立60周年記念式 ※9：30に警戒警報発令のため高等女学科1・2年生は直ちに下校、3・5年生のみ記念式に参列（4年生は安藤電気蒲田工場に勤労働員出勤のため、記念行事に参加できず）	◆戦時下においても周年記念式を行っていた。
65周年	1949	昭24	10/13	65周年記念運動会	◆前年の創立64周年記念行事のバザーは、校地拡張資金に充当するために開催されるなど、東洋英和は戦後の校地拡大・校舎新築に邁進していた。創立64周年のおしらせでは、戦後初めての5年ごとの節目に当たる創立65周年を盛大に行うことが予告されていた。
			11/6	創立65周年記念式典／ 創立65周年記念講演会 渡邊善太（牧師、聖書学者） 「キリスト教存続の理由」	

周年	西 曆	和 曆	日	周年行事	概 要
65周年	1949	昭24	11/7・8	文芸会	◆創立65周年以後、 長野彌院長 は、コンスタントに5年ごとの周年行事を行っていく。  創立65周年記念運動会
			11/7-9	創立65周年記念祭	
			11/12	母の会主催 創立65周年記念音楽会 小林昭子氏ピアノ独奏会	
			11/22	創立65周年記念ピアノリサイタル ピアノ科生徒7名、関原(永富) 和子演奏	
70周年	1954	昭29	9/25	創立70周年記念音楽会 (於：日本青年館)	◆1950年に 短期大学保育科 が開学、1954年には 英文科も増設 される。1954年の4月には短期大学木造新校舎、5月には小学部の新校舎が完成するなど次々と新しい校舎が建てられていく時期だったため、周年行事の「母の会バザー」は、 70周年祝賀とともに校地拡張や新校舎建設にささげる目的のため3日にわたり大々的に開催 される。  創立70周年記念音楽会 (日本青年館)
			10/29	創立70周年記念運動会 ※英和の運動場で行われた最後の 全院運動会	
			11/3-5	母の会バザー	
			11/3-6	中高部、短期大学、小学部 文芸会/学芸会/展覧会等	
			11/6	創立70周年記念式典/ 創立70周年記念講演会 湯浅八郎国際基督教大学学長 「世界の希望なるキリスト」	
75周年	1959	昭34	11/2	創立75周年記念式典 ※全院合同(於：中高部校庭)	◆1959年の5月には短期大学新校舎・講堂が完成し、7月に軽井沢追分寮が完成し、11月に幼稚園用地を取得するなど、 引き続き教育環境が整備 されていく。 ◆75周年の音楽会は、新しくできた短期大学講堂で同じ演目を3回にわけて上演した。
			11/2・4	1959 記念音楽会 ※2日 中学部 4日 午前：短大・高等部 午後：東光会・ 母の会・小学部	
			11/5・6	中高部 創立75周年記念祭 ※中高部校友会・生徒会主催	
80周年	1964	昭39	10/3	創立80周年記念 小・中高部 母の会・東光会合同バザー	◆80周年に至るまでの間、1960年には小学部の講堂が完成し、1962年には東洋英和幼稚園の新園舎と中学部新校舎が完成する。 戦後からの一連の校舎建設が終了し、財政的な自立の目的も立ち東洋英和は大きな節目を迎える。 そのため創立80周年は盛大な周年記念となった。 ◆ カナダの婦人ミッションへの感謝 を込めて、ミス・ハミルトン、ミス・アレン姉妹が周年記念行事に招待される。 ◆翌1965年には、 長野彌院長がカナダを訪問し、長年にわたる婦人ミッションによる東洋英和への支援に謝意を伝える。  創立80周年記念式 (厚生年金会館)
			10/27	F.G.ハミルトン来日歓迎のつどい ※全学院教職員参加	
			11/6	創立80周年記念式 ※全院合同(於：厚生年金会館)	
			11/7	創立80周年記念音楽会 ※全院合同。東光会協賛 「東洋英和の歌」 (作詞：鶴沼幸/作曲：富岡正男) が発表され、合唱される (於：厚生年金会館)	
			11/11-12	中高部 記念祭/短期大学 かえ で祭/小学部 美術展・音楽会/ 幼稚園 展示など ※各部で一般公開行事を行う	
			11/14	学院創立80周年記念 東光会〔当 時は全体同窓会〕総会 ※F.G.ハミルトン、A.W.アレン、 同令妹歓迎、長野彌院長の教育 功労賞表彰祝賀もこめて開催。 950名が出席(於：白金迎賓館)	

周年	西 暦	和 暦	日	周年行事	概 要
85周年	1969	昭44	10/17	創立85周年記念運動会 ※全院合同（於：駒沢オリンピック公園総合運動場）	◆ 学園紛争が盛んな時期 で、東洋英和にもその影響が及ぶ。記念運動会の前後では、ボイコット運動などさまざまな問題提起があった。  創立85周年記念運動会 (駒沢オリンピック公園総合運動場)
			11/6	創立85周年記念式典	
			11/7	全院教職員協議会 主題：「わたしたちには、今何が問われているか」	
			11/15	母の会主催 記念音楽会 ピアノ：安川加寿子 (於：東京文化会館)	
90周年	1974	昭49	11/6	創立90周年記念式 ※全院合同（於：小学部校庭）	◆長野彌院長に代わって 石井次郎院長 の時代となる。 ◆90周年記念事業の一環として、 かえで幼稚園 が開設される（1973年）。  創立90周年記念式
			11/6	創立90周年祝賀午餐会 (於：小学部食堂)	
			11/25	全院教職員協議会 主題：「東洋英和の更新」	
95周年	1979	昭54	11/6	創立95周年記念式／祝賀会 ※全院合同（於：小学部校庭）	◆石井次郎院長に代わって 光明照子院長 の時代となる。音楽会などの記念行事の代わりに、生徒は休校にして一日がかりで 全教職員が100周年に向けて討議した全院教職員協議会 が開かれる。
			11/22	95周年全院教職員協議会 主題：「創立100年に向かってー東洋英和の教育を考えるー」 講演会 大須賀 潔「『キリスト教に基く教育』とは何か」	
100周年	1984	昭59	10/30	中高部 100周年記念運動会 (於：東京体育館)	◆1980年には以下の 創立100周年に向かつての二つの事業計画 が公表されていた。 ①六本木校地の老朽化した建物の改築（中高部体育館新設を含む） ②横浜市緑区に約5万坪の新校地取得（横浜市に開発事前審査出願中） 新校地は（1）短大のできるだけ早い移転、（2）学院の校外施設として利用、（3）将来の学院の発展等に対応できるものとして利用 ※事業計画②は1986年の 短期大学の横浜校地への移転、横浜校地での大学開学 へとつながっていく。 ◆東光会は学院創立100周年記念祝賀会として礼拝／詩の朗読とオルガン演奏（朗読：長岡輝子、オルガン：長倉茂子）を開催（7月8日。於：マーガレット・クレイグ記念講堂）。「東光会祝賀音楽会」（12月6日。於：昭和女子大学人見記念講堂）も開催  創立100周年記念礼拝  100周年記念事業 横浜校地造成工事起工式
			11/5	創立100周年記念礼拝 ※全院合同（於：小学部校庭）	
			11/6	創立100周年記念式典 (於：中高部新体育館) お茶の会 (於：中高部集会室)	
			11/7	創立100周年記念講演会 永井道雄（元文部大臣） 「教育はどこへ」	
			11/5-7	中高部美術科主催 100周年記念美術展 史料室主催 100周年記念展示・写真展	
			11/22	全院教職員協議会 主題：「101年からの教育を目指してー英和の教育活動を支えるものー」	
			12/6	創立100周年記念音楽会 (於：昭和女子大学人見記念講堂)	

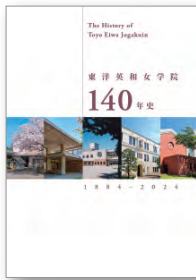
周年	西 曆	和 曆	日	周年行事	概 要
105周年	1989	平元	6/17	大学開学式 ※カナダ大使館寄贈のカナディアンメープル植樹式も行われる (於：大学集会室) 祝賀会 (於：大学食堂)	◆4月に東洋英和女学院大学が開学したため、6月17日に開学式を大学で行い、ほかの各部は11月6日に記念礼拝(記念式典)を行った。 ◆六本木校地に加えて横浜校地を得たため、全院協議会のテーマに「相互理解」が掲げられるなど、両校地の連携が意識されていった。  東洋英和女学院大学開学式
			11/6	創立105周年記念礼拝(記念式典) ※各部で開催	
			11/22	全院協議会 主題：「東洋英和女学院の課題と展望(各部の課題と相互理解のために)」	
110周年	1994	平6	11/5	創立110周年記念講演会 木村尚三郎「二十一世紀を生きる」 (於：国立教育会館虎の門ホール)	◆六本木校地、横浜校地の両校地で周年記念行事が行われるようになっていく。 ◆前年1993年4月に六本木校地に東洋英和女学院大学大学院が開設され、夏には中高部のヴォーリス設計の校舎が解体されている。同年には横浜校地の礼拝堂にパイプオルガンが設置されたため、翌1994年には記念の演奏会が2度開かれている。 ◆東洋英和幼稚園では11月26日に園創立80周年記念行事を実施 ◆同窓会では11月26日に同窓会創立100周年記念行事として記念礼拝(短大講堂)／お茶の会を実施
			11/7	創立110周年記念式典 ※午前は各部で開催、午後は来賓を招き学院が実施(於：小学部講堂) 創立110周年記念感謝の会(記念祝会)(於：第一ホテル東京)	
			11/16	110周年記念 パイプオルガン演奏会Ⅰ (於：横浜校地 東洋英和女学院礼拝堂)	
			12/19	110周年記念 パイプオルガン演奏会Ⅱ 演奏：フランソワ・エスピナス (於：横浜校地 東洋英和女学院礼拝堂)	
115周年	1999	平11	11/5	創立115周年記念礼拝(記念式典) ※各部で開催	◆大学では11月3日に開学10周年記念行事、記念式典／パイプオルガン演奏会／祝賀会／パネルディスカッションを実施、「こども広場」(学生企画)を開催(於：横浜校地)。11月27日に記念音楽会(於：新マーガレット・クレイグ記念講堂)／お茶会(主催：清楓会)も開催 ◆中高部ではこの年から「創立記念 特別礼拝週間」として、卒業生に毎朝の礼拝で話してもらうことが始まる。
			11/17	全学院協議会／懇親会 (於：横浜校地)	
120周年	2004	平16	11/6	創立120周年記念礼拝／ 記念舞踊「三番叟」西川扇藏／ 記念式典 ※『東洋英和女学院創立百二十周年記念 懸賞論文優秀作品集』 が発行され入選者を表彰 記念ページント 「光に生きて120年」 構成演出：松岡励子、出演：各部 在校生 ※全院合同(於：新マーガレット・ クレイグ記念講堂) スポーツイベント／ 展示イベント ※120年回顧と学院各部の 現況、中高部生徒作品を展示	◆船本弘毅院長のもと、120周年行事が行われる。 ◆大学では6月13日に大学開学15周年記念式典／記念講演会／記念音楽会を実施(於：パシフィコ横浜) ◆中高部では7月16日に創立120周年記念音楽会 Jubilee Concertを実施(於：東京オペラシティ：タケミツメモリアル) ◆学院同窓会は11月6日に「村岡花子展－英和の教育と『赤毛のアン』」／「卒業生の作品展」を実施  120周年記念ページント

周年	西 曆	和 曆	日	周年行事	概 要
125周年	2009	平21	11/6	創立125周年記念式 ※幼稚園から中高部まで合同。 東洋英和に派遣された最後の宣教師リンダ・ポール師 とミス・カートメルの縁戚であるキャサリン・カー 夫妻を招待(於：小学部校庭)	◆池田守男理事長・院長のもと、125周年記念として『カナダ婦人宣教師物語』(2010年2月)が刊行され、改めて宣教師の業績を回顧する機会となった。 ◆大学では6月27日に開学20周年記念式典／第1回大学名誉教授授与式／記念講演会 ジェラルド・L. カーティス(コロンビア大学教授)「政治という『窓』からみる日本社会と文化の特徴」を実施 ◆「東洋英和楓の会」が設立となる。
130周年	2014	平26	6/21	楓の会講演会(創立130周年記念・東洋英和幼稚園創立100周年記念) 日野原重明聖路加国際病院 名誉院長「生きるということ」	◆深町正信院長のもと、130周年記念の教育シンポジウムは3年にわたって開催された。第1回(2014年)は学院各部長が登壇、第2回(2015年)は児童・生徒・学生とともに卒業生が登壇し、第3回は東洋英和女学院と港区の連携事業である「村岡花子記念講座開設企画セミナー」を兼ねて行われた。 ◆東光会(高等部同窓会)では11月24日に創立130周年記念「Maple Festival 2014」を開催 ◆東洋英和幼稚園では2015年1月10日に園創立100周年記念行事を実施
			11/6	創立130周年記念式 ※全院合同で小学部校庭で開催の予定が雨のため各部別に行う教育シンポジウム(第1回)「一貫校としての東洋英和の教育：過去・現在・未来」 コーディネーター：嶋田順好(宮城学院学院長)	
	2015	平27	11/6	131周年創立記念日礼拝／第2回教育シンポジウム「東洋英和に学ぶ私たち：過去・現在・未来」	 <p>創立130周年記念教育シンポジウム</p>
			11/15	楓の会講演会(創立130周年記念・東洋英和幼稚園創立100周年記念) 渡辺和子ノートルダム清心学園理事長「心の教育と親の役割」	
			10/15	第3回教育シンポジウム・村岡花子記念講座開設企画セミナー(港区との連携事業)第1回 基調講演・パネルディスカッション「女子教育とミッションスクール」	
2016	平28	11/6	創立135周年創立記念日礼拝 ※各部で開催 全学院研修会／学院創立135周年・大学開学30周年記念講演会／レセプション 「近代日本における女子教育と東洋英和」 第1部基調講演 講師：キャロル・グラック(コロンビア大学教授) 第2部パネルディスカッション キャロル・グラック、彦谷貴子(卒業生・コロンビア大学准教授)、村岡恵理(卒業生・作家) (於：新マーガレット・クレイグ記念講堂)	◆大学では6月29日に開学30周年記念礼拝／記念コンサートを実施。9月7日に朝日教育会議「教育格差を超えて未来をつくる」(於：ベルサール六本木)を開催。11月15日に記念チャペルコンサートを実施	
		11/6	学院創立135周年・大学開学30周年記念講演会		

学院創立140周年記念行事

- ・東洋英和楓の会主催 PRE! 創立140周年記念オルガンコンサート
2023年11月18日(於：新マーガレット・クレイグ記念講堂) ※卒業生の音楽家によるコンサート
- ・創立140周年記念式典
2024年11月6日(於：小学部校庭) ※学院各部の在校生および教職員が参加
- ・150周年に向けたビジョンについてのパネルディスカッション
2024年11月6日(於：新マーガレット・クレイグ記念講堂) ※教職員対象
- ・東洋英和楓の会主催 講演会・トークセッション
2024年11月23日(於：新マーガレット・クレイグ記念講堂)
講演者：小巻亜矢氏(高等部卒業生)。(株)サンリオエンターテイメント代表取締役社長、サンリオピューロランド館長)
※第1部は講演会「大丈夫、人生いつからでも何とでもなる」、第2部は楓の会顧問 橋本五郎氏(読売新聞特別編集委員)とのトークセッション「女性のリーダーシップが拓く未来」
＜特集執筆・年表編集 松本郁子(史料室)＞

『東洋英和女学院140年史』が刊行されました！



20年ぶりの刊行となる年史です。読みやすい年史を目指し、ビジュアルも豊富なオールカラー仕様です。

東洋英和のこの20年の出来事と、これからの展望を知っていただく上で、欠かせない年史となっております。広く学院関係者の皆様にご高覧いただきたく、よろしくお願ひ申し上げます。

140年史編纂委員会

『東洋英和女学院140年史』
B5判 オールカラー 379頁



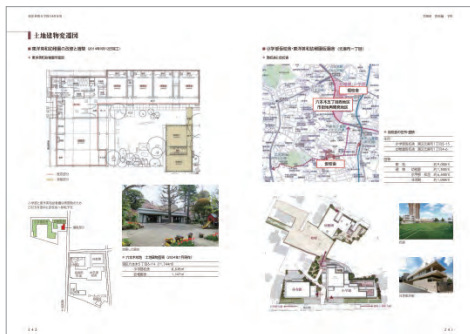
Topics 2004-2024

ここ20年の学院の出来事を取り上げたトピックスページでは、東洋英和楓の会の誕生、村岡花子と「花子とアン」ブームのほか、六本木五丁目西地区市街地再開発計画に学院が参画する経緯から今後の展望までを紹介するなど、学院の重要な6つのトピックスを掲載しています。



学院各部ページ

ICT（情報通信技術）の導入など、教育の現場がかつてない転換を迫られている一方で、東日本大震災、コロナ禍という災禍を経た学院各部のこの20年間の歴史は特筆すべきものがあります。「変わりゆく英和」とともに「変わらない英和」の姿を紹介しています。「法人」「同窓会」「ピアノ科」のページも掲載しています。



資料編(学院・学院各部資料、年表)

年史の後半には詳細な年表を含めた資料編を掲載しています。東洋英和に関わるさまざまなデータを収集し、20年間の変遷とともに学院全体・学院各部の現状を記録しています。再開発計画による東洋英和幼稚園・小学部の仮園舎・校舎移転、新園舎・校舎計画についても紹介しています。

『東洋英和女学院140年史』は学院創立140周年記念募金への御礼としてお届けいたします。3,000円以上募金いただいた方には『140年史』とともに、もれなく楓型ラインストーン入り特製ピンバッジをお贈りします。詳しくは今号の「史料室だより」No. 103に同封の募金のちらしをご覧ください。



史料が語る東洋英和の歩み

「史料室だより」No.101、No.102で「140年史制作中！英和の歴史再発見」コーナーを連載してくださった水谷悟先生がご執筆です。史料をもとに、当時の時代社会背景に照らし合わせて東洋英和の歴史に新たな光を当てていきます。これまで埋もれていた史料、近年寄贈された資料が生き活きと語りかけてくるページです。英和の歴史ファンの方々、必読です。

『東洋英和女学院140年史』刊行記念講演会のご案内

「校歌誕生の歩み～北原白秋「自筆原稿」と『同窓会会報』記事より」

講師：水谷 悟（『東洋英和女学院140年史』監修者）

日時：2024年12月7日（土）13：00～

（東洋英和女学院同窓会クリスマス礼拝後）

場所：新マーガレット・クレイグ記念講堂（六本木校地 中高部）

※学院関係者のための講演となっております。

このたび『東洋英和女学院140年史』をご監修いただいた水谷悟先生（静岡文化芸術大学教授）は、2004年に東洋英和女学院中高部社会科専任教諭に着任してから12年間、2013年度からは本大学の非常勤講師として教鞭を取っていらっしゃいます。近現代史がご専門であり、かつては史料室委員でもあり、『カナダ婦人宣教師物語』の執筆者の一人でもあります。歴史を熱く語る水谷先生の授業は、生徒や学生に歴史を学ぶ楽しさを与えてきました。今回、140年史の刊行を記念した水谷先生による講演を聴く貴重な機会となっております。

「史料室だより」読者の皆様もふるってご参加ください。



『東洋英和のれきし』（子ども140年史）も刊行されました！



『東洋英和のれきし』
A5判 オールカラー95頁
文・イラスト 山本香織
（前小学部長）

前号の「史料室だより」No.102で特集いたしました、『東洋英和のれきし』（子ども140年史）も刊行されました。

前小学部長である山本香織先生が長年の構想を経て、執筆とイラスト作成を手がけ制作全般を担当しました。「子どもたちが単に歴史上起こった出来事をただでなく、綿々と受けつがれている宣教師の先生がたの祈りと、いつの時代にも一貫して学院に示されている神さまのわざについて知ることで、一人ひとりに託されている使命に気づいてほしい」と山本先生は語っています。

おもに小学部3年生の社会科授業で使用されるテキストではありますが、過去の学院の刊行物や史料が多数参照され、大人にとっても読み応えのある歴史の本となっております。

『東洋英和のれきし』は2024年11月中旬より、東洋英和女学院中高部購買部にて販売いたします（販売価格500円）。学院ホームページからお求めいただけます。詳しくは学院ホームページ「学院からのお知らせ」をご覧ください。

<桜プロジェクト>植樹10周年カナダツアー



<桜プロジェクト>10周年ツアー実行委員会代表
前小学部長 山本 香織

今号では「史料室だより」No.84、No.93でも紹介した<桜プロジェクト>の現在についてご報告いたします。

2014年6月、同窓会有志による「桜プロジェクトーありがとうを桜に託して」発足によって、カナダの地2か所に植樹された桜たちは、現在どうなっているのでしょうか。

植樹5周年ツアー（2019年5月）に続き、10周年ツアーが、折しも学院創立140周年の2024年5月9日～15日に実施されました。

「桜プロジェクト」は有志の働きにより始まりましたが、カナダと東洋英和の友好関係の継続は、学院全体のわざとしてなされるべきです。その意味で今回のツアーには、高橋貞二郎副院長が、学院を代表して参加されました。こうして、高橋先生と、参加を希望した同窓生および旧教職員を加えた15名で、「桜3組」が結成されました（ちなみに植樹ツアーが「桜1組」、5周年ツアーが「桜2組」です）。

年代もまちまち、初顔合わせであっても、そこは英和生です。すぐに和やかな仲間同士となって羽田空港から飛び立ちました。

ツアーの主目的、ソロルド市の「カートメルウェイ」と名付けられた桜並木と、ハミルトン市のセンテニアル公園（別名・桜公園）の桜たちの10年後確認作業は、感動しかありませんでした。

広い青空と草原を貫くカートメルウェイでは、ちょうど可憐に咲くヤマザクラが、私たちを待っていてくれました。植樹ツアーの1組は当然ですが、5年目の桜を訪ねた2組も時機を逸し、実は、「カナダで桜を見る」ことは、これまでできていませんでした。しかも5年前のカートメルウェイでは、並木の桜はひ弱に見え、むしろ一抹の不安すら感じさせられていました。しかし今回初めて、美しく花開く姿を私たちに見せてくれたのです。



カートメルウェイにて

ソロルド市は、学院創設者ミス・カートメルご生誕の地です。ミス・カートメルの兄の曾孫のミセス・カーをはじめ、カートメル家の縁戚の方がたと、ソロルド市長ウグリーニ氏が、今回も、それはそれは温かく私たちを迎えてくださいました。



ソロルド市から感謝状を贈られました（左より ミセス・カー、ソロルド市長ウグリーニ氏、高橋貞二郎副院長、松本幸恵常務理事〈元同窓会会長・桜プロジェクト発起人の一人〉）。

なお、センテニアル公園の桜たちがすでに満開を過ぎ、訪問時には豊かな緑の空間となっているであろうことはわかっていたのですが、思いがけず、もう1か所、私たちを見事な桜で迎えてくれた場所がありました。それはハミルトン市営墓地にあるミス・カートメルの墓所を訪ねた時のことです。ヤエザクラがちょうど色鮮やかに、見事に、満開でした。桜の下、墓碑を囲んで高橋先生のメッセージによる小礼拝をささげました。



ミス・カートメル墓前での礼拝

そしてもう一つの大きな目的は、ハミルトン市が備えてくださった、センテニアル公園での植樹10周年記念式典への参加です。この時のために、高橋先生と松本幸恵氏は英語のスピーチの準備、3組全員は、1934年の学院創立50周年にあたってウィリアムM.ヴォーリズ氏が作詞した東洋英和女学院英語校歌



10周年記念式典において謝辞を述べる高橋貞二郎副院長
(左端はハミルトン市長ハワース氏、その右横は在カナダ
特命全権大使 山野内勲二氏)

の練習、有志3名は「さくらさくら」の舞の練習に励んできました。ところが空からは大粒の雨。加えて風も強くなってきたところでの式典開始です。プログラムはテントを打つ激しい雨音の中進んだのですが、何と、私たちの出番直前に雨がやんだこと、これは後世に語り継がれていってほしいです。

式典後、セントポールズ教会でのレセプション会場に入ると、中心に置かれた桜がいっぱい散りばめられた巨大な10周年記念ケーキが目に入り、一同思わず歓声をあげました。セントポールズ教会の皆様がどんなに私たちを歓迎し、もてなしてくださったかは、翌日の聖日礼拝後の歓迎音楽会と、教会員の方がたとの昼食会においても、強く感じました。カナダの皆様との友情は、私たち一人ひとりの心に深く沁み入っています。



レセプション会場の巨大な10周年記念ケーキ
(左は有賀誠一牧師夫妻)



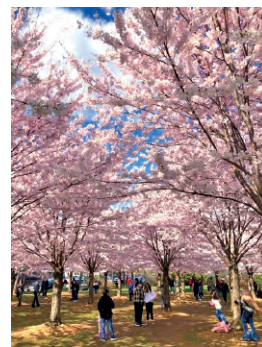
セントポールズ教会での聖日礼拝後の歓迎音楽会で、教会の皆様との「ハレルヤコーラス」に加わる(指揮をされているのは有賀牧師)。

ところで、セントポールズ教会あがての歓迎を牽引し、式典のためにハミルトン市を動かし、ソロルド市の皆様との計画を進め、桜3組ツアー受け入れ準備に力を尽くされたのは、今回も、現地在住、元

カナダ合同教会牧師の有賀誠一先生です。有賀牧師は、かつてミス・カートメルの母教会のセンテナリー教会副牧師をされていたご縁から、宣教師のお墓探し、「桜プロジェクト」実現のための交渉、『カナダ婦人宣教師物語』の英訳など、いつのまにか東洋英和のために奔走する20年を過ごしてこられました。そしてセントポールズ教会に「英和友好委員会」を立ち上げ、今後はどのような交流ができるか、教会の皆様と考え始めてくださっています。

私は、カナダへの「ありがとう」を、桜に託して贈ることを思いつかれた同窓生松岡裕子氏のアイデアはつくづく素晴らしいと思っています。もし感謝の贈り物が、カエデ型純金記念プレートだったとしたら…。友好を表しつつも、ケースの中に鎮座し続けるだけです。でも桜は違います。市民の皆様のだら中で、どんどん大きくなっているのです。

カナダと東洋英和とのつながりは、過去のものではなく、記念として残すものでもなく、未来に向かって育てていくべきものなのだというのを、今回立派に成長した2か所の桜を目の当たりにして実感しました。成長を続ける桜のように、カナダと英和との絆を末長く育てていくことが課題でしょう。有賀牧師お一人に頼ることなく…。



立派に成長し、市民の皆様楽しんでいただけている
センテナリアル公園の桜 (2024年4月 有賀牧師撮影)

次世代へつなげる希望の星についての後日談があります。ソロルドに住む、ミス・カートメルのお兄様の玄孫ヤングさんの10歳の孫娘さんが、日本のこと、東洋英和のことに興味を持っているそうです。

ただ今、ミス・カートメル子孫のお嬢さんの学校のクラスと、小学部の子どもたちとの交流の実現を画策しています！



迷子の記念品たち ~いつ作られたものだけかご存じですか~

東洋英和女学院では、校章や制服、スクールカラー、楓の葉などをモチーフにした品々が、さまざまなシーンで制作され、愛用されています。制作主体は学院、幼稚園から大学までの各部、母の会、同窓会、卒業生有志など、制作目的は周年の記念品、卒業記念品、運動会やクリスマスといった行事でのプレゼント、寄付付きグッズとしての頒布品など多岐にわたります。

史料室へご寄贈いただいた中にも、このような品々が数多く含まれています。持ち主ご本人からの寄贈のみならず、ご家族の遺品である場合も多く、どのような経緯で作られたのか、はっきりと分からないケースも多いです。

以下に来歴不明の記念品のごく一部を掲載しますので、いつどのような目的で作られたものか、ご存じの方がいらっしゃいましたら、ぜひ史料室までご一報ください。

連絡先：〒106-8507 東京都港区六本木5-14-40 東洋英和女学院 法人事務局史料室
TEL/03-3583-3166 FAX/03-3583-3329 E-mail/archive@toyoeiwa.ac.jp



形状：金属製の楓モチーフ、スタンド型
用途：文鎮、カード立て、メモスタンド
制作主体・時期・目的・寄贈年月日：不明
*東洋英和の校章や作成年の刻印なし。

形状：金属製、青色旗型、竿頭が楓型。表に「SOS」
「TOYO EIWA」、裏に「地球を守ろう」の刻印あり。
用途：ピンバッジ
制作主体・時期・目的・寄贈年月日：不明



形状：木製円形小箱、金属の校章貼付
制作時期：1960年代か？
制作主体・目的：不明
寄贈年月日：2006年3月ほか複数の寄贈あり
*複数所蔵のうち1点は、新井竹先生から小林多恵子先生が預かったものを、さらに卒業生に託され、のち学校に届き、中高部事務室経由、元非常勤講師が史料室へ移管。

形状：金属製、表面は楓モチーフ、裏面には「LXXIX」。
用途：ペンダント
トップ
制作主体・時期・目的・寄贈年月日：不明
*裏面のローマ数字が74を意味することから、創立74周年（1958年）のころ制作されたと推察される。



利用統計 (2024年4月～2024年9月)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
展示見学者数		128	99	181	85	39	101
展示見学者区分	学内関係者	79	44	106	18	9	19
	一般	49	55	75	67	30	82
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
資料閲覧者数(累計)		5	7	6	11	2	9
閲覧者区分	本学学生・生徒						
	現教職員	1	2	2	2		1
	旧教職員		1		1		
	同窓生・学院関係者	2		2	5		6
	同窓生(研究者)		1				
	学外研究者・学生	1	2	1	3	2	2
	一般	1	1	1			
利用の目的	年史編集			1	1		6
	著述・論文作成	1	1	1			
	伝記資料調査		3	1	5	2	2
	記録類の調査・研究	3	3	2	2		1
	学院広報関係			1	1		
	その他	1			2		
	資料の種類(重複あり)	東洋英和関係	5	7	6	11	2
	カナダの教会関係	2	1	1	1		
	村岡花子関係		2		1	2	
	周辺地域史						
	その他						
		4月	5月	6月	7月	8月	9月
月別レファレンス件数		18	14	15	13	6	10
質問者の区分	本学学生・生徒						
	現教職員	9	2	12	6	1	6
	旧教職員		2	1	5	1	
	同窓生・学院関係者	5	3		1	1	2
	同窓生(研究者)						
	学外研究者・学生	1	3	2		2	1
	学外研究機関		1		1		1
	一般	3	3			1	
質問内容(重複あり)	資料所蔵調査	6	8	3	4	2	4
	写真所蔵調査				1	1	
	事項調査	11	5	7	5	4	5
	その他	4	3	5	4		1

史料室の活動より (2024年4月～2024年9月)

(☆は複数回)

2023年4月

- ☆『東洋英和女学院140年史』編集、校正、各部とりまとめ(松本・三笠)、資料編年表ほかデータ作成、編集、校正(酒井・谷川)
- ☆子ども140年史『東洋英和のれきし』編集(山本香織前小学部長)、照会対応・校正(史料室スタッフ)
- ・新任者に学院沿革説明(展示コーナーにて)(松本)
- ☆資料貸出―「赤毛のアンと軽井沢」展のため、村岡恵理氏と書籍や資料、画像を選定、展示協力
- ☆「史料室だより」No.102編集、校正
- ☆140周年記念事業関連打ち合わせに参加(松本)
- ・照会―WMSのモットーについて→UCC ArchivesよりWMSには聖句のモットーは無かった
- ☆桜プロジェクト植樹10周年カナダツアー準備(三笠)
- ・出張―国立公文書館つくば分館見学会参加(松本・三笠)
- ☆来室／調査―鹿島建設 北山浩平氏。幼稚園園舎設計者の松ノ井寛治について
- ・撮影アテンド―婦人画報Web版のため村岡花子資料を撮影
- ☆大学での歴史展示―平体由美史料室委員会委員長、野田潤委員、町田小織委員と協議、制作業者選定、校正ほか
- ・校正―「楓園」98号のうち歴史のページ
- ・来室／調査―上智大学大学院生。道徳授業と聖書の授業の包摂について
- ・照会―ミス・レーマンはアメリカ人だがWMS派遣か？→ミス・レーマンはWMSにより日本に派遣されている
- ・鷲谷由美氏(大学図書館元職員)にはがき文字解読依頼
- ・第1回 法人事務局内 史料保管検討会(松本)
- ・照会―副院長より、学院に派遣の宣教師の総数について
- ・来室／調査―1991年高等部卒学年会幹事2名。学年会配布資料作成のため、過去の資料を調査
- ・軽井沢タリアセンでの「赤毛のアンと軽井沢」展見学(史

料多数貸出)(松本・谷川)

- ・照会―村岡恵理氏より、ロレッタ・ショーの軽井沢の別荘について→かつて愛宕山943に存在していた

2024年5月

- ☆『東洋英和女学院140年史』『東洋英和のれきし』関連業務
- ・出張(9～15日)―桜プロジェクト植樹10周年カナダツアー(三笠)
- ☆桜プロジェクト事後の諸事務(三笠)
- ・「史料室だより」No.102 納品、発送
- ☆来室／調査―舟木てるみ高千穂大学准教授、石津珠子本学名誉教授。芝恭子本学名誉教授の論集のための資料調査
- ☆来室／調査―学外研究者。片山廣子蔵書について
- ・24日―第11回 140年史編纂委員会
- ・照会―後藤哲夫元山梨英和学院教諭より①カートメル略歴について②カナダ合同教会の成立について

2024年6月

- ☆『東洋英和女学院140年史』『東洋英和のれきし』関連業務
- ・同窓会総会に出席、「史料室だより」配布、定期講読受付
- ☆大学フレッシュマンセミナー「自校史」担当(3コマ)
- ☆大学「東洋英和の歴史」授業 第8～10回担当
- ・4日―第1回 史料室委員会
- ☆来室―数原基子氏、郷司尚子氏。記念品リストの入力、ディスプレイ作業ボランティア
- ☆佐々木肇氏(元職員)がKAEDE MAGAZINEの卒業生索引作成ボランティア
- ・来室／調査―大学院図書室職員。短期大学時代の図書館について
- ・照会―千葉商科大学朽木量教授より、アーカイブズ構築、目録作成などについて
- ・来室／調査―学外研究者。明治時代のピアノやオルガンのカナダからの輸入についてなど

- ・照会—中高部教諭より、王女会、YWCAについて
- ・照会—青木豊氏（若林里雨氏ご子孫）より、若林里雨と片山廣子とのつながりについて
- ・資料整理（コロナ関連資料他ファイリング）
- ・28日—第12回 140年史編纂委員会

2024年7月

- ☆『東洋英和女学院140年史』『東洋英和のれきし』関連業務
- ・来室／調査—実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所久保貴子専任研究員、志渡岡理恵教授。自校史教育について調査、展示コーナー、史料室見学。のち本学教員と女子大学における自校史教育について意見交換
- ☆照会—『140年史』監修者水谷悟教授より、『140年史』のための諸事項
- ・中高部母の会会長より、中高部地下倉庫の母の会資料の整理について相談あり
- ☆来室／調査—大学宗教部長。宣教師の記録など
- ・出張—13日：『140年史』年表校正（午後）、14日：軽井沢教会で山北宣久牧師の説教による礼拝に参加、旧ハミルトン&ハード軽井沢コテージに移動し清掃奉仕（参加者は同窓会会長など約20名の同窓生有志）、オーナー夫妻と交流、15日：『140年史』年表校正（松本・三笠・酒井・谷川）
- ・照会—相模女子大学アーカイブ室設置準備室より、卒業生資料の受け入れ方法について
- ・来室／展示見学—千代田区男女共同参画センターMIW 小野由理氏。村岡花子文庫などを紹介
- ・19日—第13回 140年史編纂委員会
- ・来室／打ち合わせ—内藤達元中高部数学科教諭、卒業生神戸氏、小島氏、横江氏。故香澤謙一郎元中高部理科教諭の記念誌（ブログ集）編集について
- ・カナダ出張中の楠山眞里子教諭が、マウント・アリソン大学へ宣教師物語英語版を寄贈。ミス・ハミルトンが同窓生であることについても同大学へ情報提供
- ・照会—8月22日の山梨英和関係者の軽井沢コテージ訪問に先立ち「史料室だより」バックナンバーURLを紹介

2024年8月

- ☆『東洋英和女学院140年史』『東洋英和のれきし』関連業務
- ・東洋英和幼稚園より依頼があり、卒業生の建築業界関係者を招いての打ち合わせに史料室も参加（松ノ井覚治設計による園舎の見学等について協議）
- ・照会—学外研究者より、東洋英和幼稚園の名称の変遷、師範科の名称の変遷について
- ・執筆—「楓美」30号記事
- ・大学5号館歴史展示開始（史料室も制作協力）

2024年9月

- ☆『東洋英和女学院140年史』校了に向かって最終作業
- ☆『東洋英和のれきし』校了に向かって最終作業
- ・2日—『140年史』掲載のための仮園舎・校舎撮影アテンド
- ☆「史料室だより」No.103 執筆・編集ほか
- ・6日—第14回 140年史編纂委員会
- ・11日—『東洋英和女学院140年史』校了
- ・打ち合わせ—『140年史』入稿後のデータの整理、統合について（松本・三笠・酒井・谷川）
- ・17日—第2回 史料室委員会
- ・18日—山梨英和高等学校通信制課程グレイスコースの県外研修のため展示コーナー及び史料室を案内
- ・来室／調査—中高部ハンドベル部OG。年史作成のため、「楓」バックナンバー、ハンドベル部関連資料
- ・25日—『東洋英和のれきし』校了

【おもな移管資料】

- ・中高部母の会より、母の会ファイル（ミス・ハミルトン基金関連2冊）、総会資料、プリント類

【おもな受贈資料】

- ・新宿歴史博物館より林芙美子からの村岡花子宛て詩稿「風も吹くなり」レプリカ
- ・元東光会役員より「その後の集い」記録ノート一式（「その後の集い」は「東光会のつどい」につながる）
- ・小学部児童によるイラストをプリントしたガラスコップセット／English Songs for the Kindergarten and Club Child (Collected in the Toyo Eiwa Kindergarten Training School) ほか
- ・創立七十周年記念「敬神奉仕」「TOYO EIWA」と刻印のある鉛筆セット（6本現存）、箱付き
- ・村岡家より村岡花子の旧所蔵品多数
- ・中高部制服、ハーフコート、レインコート一式
- ・内丸教会中原（生寫）陽子牧師より「約翰傳」（小冊子・印刷者：村岡平吉、発行所：米国聖書会社）
- ・東洋英和女学院ハンドベルフェスティバル事務局と父親有志の会より第26回ハンドベルフェスティバルDVD
- ・「現代キリスト教 教理・倫理問答」（1969年）／歌集「こかげ」No.2／南部泰孝「現代人間学講座」ほか
- ・「楓」（1957年復刻版より）11冊
- ・第58回小学部卒業式プログラム、幼稚園の頃の写真（コピー）、原田知津子氏著作（コピー）
- ・石津珠子名誉教授より、宣教師・旧教員の写真多数
- ・「筑豊の子供を守る会」が運営していた「しおん園」の保育写真2葉（1970年）、運動会のしおり
- ・中高部図書活動委員関連、校外行事等プログラム・プリント・記録、クラス発表会台本、学年会プログラムほか
- ・中高部北海道修学旅行の記録（国語の宿題作文の文集）1957年（書籍・雑誌・論文）
- ・「本のひろば」2024年5月号。『カナダ合同教会 日本での百年』書評（松本執筆）掲載号
- ・佐佐木朋子氏、中嶋葉子氏より、「心の花」『佐佐木信綱研究』多数冊
- ・西田哲也法人事務局長より、渡辺裕著『校歌斉唱！—日本人が育んだ学校文化の謎—』（東洋英和の校歌に言及）
- ・伊勢田奈緒評議員より、自著『ジョン・ノックス スコットランド宗教改革の立役者』日本評論社、2024年
- ・井上琢智元関西学院学長の紹介により、関西学院より、「関西学院大学 キリスト教と文化研究」創刊号より最新号
- ・実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所より、「News Letter」No.22、実践女子大学下田歌子記念女性総合研究所開所10周年記念「10年のあゆみ」、『下田歌子小伝 下田歌子と実践女子学園の歩み』、『良妻と賢母』、『よもぎむぐら 上』
- ・山梨英和史料室より、浅川（旧姓 三枝）たか代についての論考、関連資料画像
- ・興望館より、『興望館杏掛学荘80年』（ブラックモアの画像提供）、『興望館セツルメント資料室のご案内』
- ・香澤謙一郎先生ブログ全集編集実行委員会より、『香澤謙一郎先生全集』I～V編
- ・内藤達元中高部数学科教諭より、『香澤謙一郎先生 寄稿文集』（在職中に先生が執筆した文章を集めたもの）

【おもな画像提供】

- ・千代田区男女共同参画センターMIWへ、村岡花子関連画像5点（展示のため）

🌸 今号は「資料紹介」「東洋英和の先生がた」を休載させていただきました。あしからず御了承ください。

🌸 展示コーナーご案内

- ◆村岡花子文庫展示コーナー企画展 —学院創立140周年記念展示—
東洋英和の年史・学院関係刊行物からたどる村岡花子が描き出した東洋英和の歴史
会期：2025年3月24日(月) まで延長いたします。
- ◆学院資料展示コーナー企画展 東洋英和の周年記念—創立25周年から現在まで—
会期：2024年12月21日(土) まで

🌸 資料ご寄贈のお願い

史料室では、学院の歴史や学校生活の様子を伝える資料、写真、記念品等を収集しています。お手許にあってご不要のものがございましたら、ご寄贈いただけますと幸いです。また、卒業生および教員の方々の著作も収集しています。

【お問い合わせ先】東洋英和女学院史料室 〒106-8507 東京都港区六本木5-14-40
Tel 03-3583-3166 (直通) Fax 03-3583-3329 E-mail archive@toyoeiwa.ac.jp

🌸 2024年度 史料室委員会委員

委員長	平体 由美 (大学)
大 学	野田 潤 町田 小織
中 高 部	町島 由美子 竹内 明美
小 学 部	地主 武史
東洋英和幼稚園	山本 麻紀
かえで幼稚園	山下 久美
史 料 室	松本 郁子 三笠 知世